

2023年度環境経営レポート

【レポートの対象期間：2023年3月～2024年2月】

伸成工業株式会社

《ご挨拶》

伸成工業株式会社は、昭和44年の創業以来、金属フライス加工一筋に努めてまいりました。当社はマシニングセンタ、NCフライス盤を中心に研磨機やワイヤー放電加工機を併用してコンデンサーなどの半導体関連部品の製造装置や医療機器、加工食品の製造設備部品などの精密加工部品の製造を手掛けております。誰からも頼られる企業であること目標に、お客様への加工品の技術的相談や提案ができる会社(人)なる事を目指しております。

私たちは、環境方針をもとに環境活動を展開し、地球環境と人に優しい企業を目指すことにより、SDGsの達成に貢献してまいりたいと思っております。

これらの活動の取り組みを「環境経営レポート」としてまとめました。私たちの取り組みをご高覧の上、皆様の意見を頂きながら次の環境活動に生かし、持続的に環境保全に努めてまいりたいと思っております。

伸成工業株式会社 代表取締役社長 武藤 伸幸



1. 組織の概要

1. 事業所及び代表者名

伸成工業株式会社
代表取締役社長 武藤 伸幸

2. 所在地

〒379-0111 群馬県安中市板鼻 5 2 3 - 1

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 武藤 伸幸
環境管理責任者 : 専務取締役 萩原 みゆき
担当 : E A 2 1 事務局 萩原 みゆき
TEL : 027-382-6537
FAX : 027-382-6837

4. 事業の内容

製造業(金属切削加工業)

5. 事業規模

活動規模	単位	2022年	2023年
売上高	万円	8,455	6,931
従業員数	人	8	7

2. 対象範囲

1. 対象範囲（認証・登録範囲）

伸成工業株式会社 全組織及び全活動

2. 環境経営方針

〔基本理念〕

私たちは、かけがえのない地球を守ることが、人類共通の最重要課題のひとつと認識し、日常の事業活動を通じて実現可能な範囲で地球環境保全に配慮した活動を行います。

〔基本方針〕

伸成工業(株)は、基本理念にのっとり、各種精密部品の切削加工に関する事業活動を行う中で、以下の環境経営活動を行います。

1. 二酸化炭素排出量削減のため、電力消費量の削減・廃棄物の単純焼却の削減に努めます。
2. 事業活動により発生する不良品の削減、廃棄物のリサイクルを推進して限りある天然資源の有効利用に努めます。
3. 限りある水は、使用量削減のため節水に努めます。
4. 事業活動において、環境にかかわる法律・規制その他公的基準を遵守します。
5. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知するとともに、従業員の環境保全意識の向上を図り、地域の環境保全活動に積極的に貢献します。
6. 環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境保全活動の継続的な改善に努めます。



2022年 1月15日

伸成工業株式会社
代表取締役
武藤 伸幸

3. 環境経営目標・環境経営活動計画

環境経営目標						経営活動計画
	項目	基準年 (実績)	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標	実施事項
1	売り上げ 100万円当 り二酸化炭 素排出量 の削減	2019年度 (9.0kg- CO2/100 万円)	2019年度 に対して 3%減	2019年度 に対して 20%減	2019年度 に対して 21%減	①空調温度適正化・表示
						②空調温度重点管理月間の設定
						③照明・PC電源不要時のOFFの推進
						④エアコン清掃の実施
						⑤電力使用量、ガソリン購入量の集計
						⑥自家消費型太陽光発電の年間の利用
2	売り上げ 100万円当 り廃棄物排 出量の削 減	2019年度 (0.41kg /100万円)	2019年度 に対して 4%減	2019年度 に対して 26%減	2019年度 に対して 27%減	①分別ルールの徹底
						②分別廃棄の徹底
						③資源物の回収(雑紙・ダンボール)
						④廃棄物排出量の集計
						⑤水溶性廃油の集計
						⑥機密書類廃棄ボックスの利用
						⑦タブレットの導入
3	従業員1人 当たりの水 使用量の 削減	2019年度 (14m ³ /1 人)	2019年度 に対して 2%減	2019年度 に対して 3%減	2019年度 に対して 3%減(この 数値を維持する)	①毎月のメータを確認する(漏水防止)
						②節水表示
						③水溶性油の交換頻度の低減
						④雨水利用タンクの設置
4	化学物質 取扱及び 管理の徹 底	—	取扱商品 の調査・管 理手順の 策定	取扱商品 の調査・管 理手順の 策定	管理手順 の順守	①管理手順の策定(化学物質含有の場合)
						②管理手順の徹底(化学物質含有の場合)
5	本業に関 する目標	①不良の削減(件数の確認)で再生産によるエネルギー及びマテリアルの無駄をなくす。				
		②スーパーアルカリイオン水の使用を使用し切削油の交換頻度を低減、水の節約に努める。				

*購入電力の排出係数は、令和5年度0.376kg-CO2/kWh【東京電力エネルギーパートナー（株）】を使用しています。

4. 環境経営計画に基づき実施した取組内容と環境活動

取組内容

自家消費型太陽光発電設備の導入



切削油腐敗防止のためスーパーアルカリ水を利用



緊急事態対応訓練

消防訓練(消火・避難)



現場での取組内容(油の流出対処訓練)



環境活動

資源ごみ・産廃物・可燃ごみ分別の共育

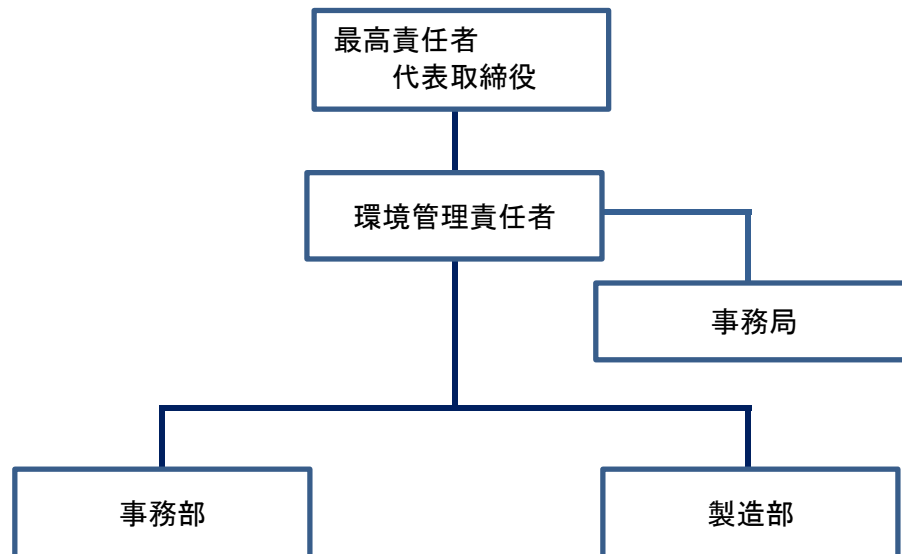


地域環境保全活動(毎月2〜3回ゴミ拾い)



5. エコアクション21 推進組織

伸成工業株式会社 実施体制図及び役割・責任・権限



職 名	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
最高責任者	【代表取締役社長 武藤 伸幸】 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。
	エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源(人材・資金・機器設備・技術技能を含む)を準備する。
	環境方針を制定する。
	エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じ改訂を指示する。
環境管理責任者	【専務取締役 萩原 みゆき】 エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局	【専務取締役 萩原 みゆき】 事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。

EA21推進会議	最高責任者・環境管理責任者・事務局・製造部・事務部で構成し、環境管理責任者がミーティング時に開催する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。
----------	--

6.-1 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

環境経営目標							環境経営計画	
	項目	基準年 (実績)	2023年度 目標	2023年度 目標値	2023年度 実績	目標の達成 状況	実施事項	評価
1	売り上げ 100万円 当り二酸化 炭素排出量 の削減	2019年 度 (9.0kg- CO2/10 0万円)	2019年 度に対し て3%減	8.81kg/ 百万円	7.40kg/ 百万円	達成	①空調温度適正化・表示	◎
							②空調温度重点管理月間の設定	○
							③照明・PC電源不要時のOFFの推進	△
							④エアコン清掃の実施	○
							⑤電力使用量、ガソリン購入量の集計	◎
							⑥自家消費型太陽光発電の設置	◎
2	売り上げ 100万円 当り廃棄物排出 量の削減	2019年 度 (0.41kg /100万 円)	2019年 度に対し て4%減	0.396kg/ 百万円	0.31kg/ 百万円	達成	①分別ルールの徹底	○
							②分別廃棄の徹底	○
							③資源物の回収(雑紙・ダンボール)	◎
							④廃棄物排出量の集計	◎
							⑤水溶性廃油の集計	◎
							⑥機密書類廃棄ボックスの利用	◎
							⑦タブレットの導入	×
3	従業員1 人当りの水使用 量の削減	2019年 度 (14m ³ /1 人)	2019年 度に対し て2%減	13.95m ³ /1人	15.8m ³ /1 人	未達成	①毎月のメータを確認する(漏水防止)	△
							②節水表示	○
							③水溶性油の交換頻度の低減	○
							④雨水利用タンクの設置	×
4	化学物質取扱 及び 管理の徹 底	—	管理手 順の策 定	—	管理手 順の策 定ができ なかった	未達成	①管理手順の策定(化学物質含有の場合)	×
							②管理手順の徹底(化学物質含有の場合)	×
5	本業に 関する目 標	①不良の削減(件数の確認)で再生産によるエネルギー及びマテリアルの無駄をなくす。						○
		②スーパーアルカリイオン水を使用し切削油の交換頻度を低減、水の節約に努める。						○

※環境経営計画の取組・評価【◎良く取組めた・○取組めた・△取組みが不足していた・×取組めなかった】

※主な環境負荷実績

環境負荷	2019年	2023年（環境活動レポート対象期間）
①二酸化炭素排出量（kg-CO ₂ ）	82386.85	51301.17
②廃棄物排出量(kg)	3745	2137
③水資源投入量（m ³ ）	185	158

6.-2 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境経営目標						環境経営計画				
	項目	基準年 (実績)	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標	実施事項	2023年 度実績	2024年度 実施予定	2025年度 実施予定	
1	売り上げ 100万円 当り二酸化炭素 排出量の削減	2019年 度 (9.0kg- CO2/10 0万円)	2019年 度に対し て3%減	2019年 度に対し て20% 減	2019年 度に対し て21% 減	①空調温度適正化・表示	◎	継続	→	
						②空調温度重点管理月間の設定	○	○		
						③照明・PC電源不要時のOFFの推進	△	○		
						④エアコン清掃の実施	○	継続	→	
						⑤電力、ガソリン量の集計	◎	継続	→	
						⑥自家消費型太陽光発電の設備利用	○	○		
						⑦蓄電池の設備	-	-	○	
2	売り上げ 100万円 当り廃棄物排出 量の削減	2019年 度 (0.41kg /100万 円)	2019年 度に対し て4%減	2019年 度に対し て26% 減	2019年 度に対し て27%減	①分別ルールの徹底	○	継続	→	
						②分別廃棄の徹底	○	○		
						③資源物の回収(雑紙・ダンボール)	◎	継続	→	
						④廃棄物排出量の集計	◎	継続	→	
						⑤水溶性廃油の集計	◎	継続	→	
						⑥機密書類廃棄ボックスの利用	◎	継続	→	
						⑦タブレットの導入	×	-	○	
3	従業員1 人当りの水使 用量の削減	2019年 度 (14m ³ /1 人)	2019年 度に対し て2%減	2019年 度に対し て3%減	2019年 度に対し て3%減	①毎月のメータを確認する(漏水防止)	△	○		
						②節水表示	○	継続	→	
						③水溶性油の交換頻度の低減	○	継続	→	
						④雨水利用タンクの設置	-	-	○	
4	化学物質取扱 及び管理の徹底	—	取扱商品 の調査・管理 手順の策定	取扱商品 の調査・管理 手順の策定	管理手 順の順 守	①取扱商品(化学物質含有)の調査	-	-	○ 再調査	
						②購入量の把握	-	-	○ 再調査	
						③SDSの入手	-	-	○ 再調査	
						④取扱商品一覧表の作成	-	-	○ 改定	
						⑤管理手順の策定(化学物質含有の場合)	×	○		
						⑥管理手順の徹底(化学物質含有の場合)	×	△		
5	本業に 関する 目標	①不良の削減(件数の確認)で再生産によるエネルギー及びマテリアルの無駄をなくす。								
		②スーパーアルカリイオン水を使用し切削油の交換頻度を低減、水の節約に努める。								

次年度の環境経営目標及び環境経営計画について

エコアクション21運用を始めて2年目となる今期は、二酸化炭素排出量と廃棄物排出量を大幅に削減することができた。来期もさらなる削減を進めるため節電とごみの分別を徹底したい。
水使用量については現状での削減が難しいため、トイレに雨水利用ができないか検討したい。利用可能ならば、2025年内に雨水タンクの設備を導入する予定。

7. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
騒音規制法	特定施設設置の届出	遵法
振動規制法	特定施設設置の届出	遵法
消防法(危険物)	少量危険物貯蔵・指定可燃物取扱い届出書、立ち入り検査	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準(契約書・許可証)、マニフェスト交付・保存及び交付状況報告	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

又、環境に関する訴訟、苦情等は過去3年間ありません。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

二酸化炭素排出量及び廃棄物の削減については大幅な削減ができ、取り組みの効果が実証された。だが水資源投入量は削減には至らなかった。二酸化炭素の排出削減の成果が上がったのは、自家消費型太陽光発電の導入の効果といえる。今期は環境活動2年目となり、環境活動も社内に浸透し始めた。今後も節電や廃棄物の分別の徹底を図り削減目標を達成できるよう、会社としてもEA21活動を後押しをしていきたい。節電については太陽光発電の発電量を考慮した生産機械の利用方法を現場と共に模索し、製品を生産する際のエネルギー効率も向上させたい。今期は、自家消費型の太陽光発電システムを年間で利用できるのも、更なる節電の効果が大きいと期待できる。廃棄物については、今後も段ボールや雑紙などの分別を徹底し、資源物回収にまわして廃棄物の削減につなげていく。水資源投入量の削減については雨水利用を考えていきたい。